

<論 文>

現代中国女性の東南アジア移動とその影響

厦門大学南洋研究院・東南アジア研究センター

施 雪 琴

Chinese Female Migration to Southeast Asia Since 1978

SHI, Xue Qin

訳：守 政毅

China was a major migrant exporting country in the past centuries which has produced tens of millions of *Chinese Diaspora* who mainly concentrated in Southeast Asia countries. Since 1978 China opened up to outside world, Chinese' migrant to Southeast Asia has been increasing with the characteristic of feminization. Chinese women migration to Southeast Asia stands out Chinese migration culture and politics, which is not only an extension of historically civil association between China and Southeast Asia Countries, but also a result of normalization of diplomatic relationship and deepening economic cooperation between China and Southeast Asia. Generally speaking, Chinese female migrant in Southeast Asia is playing an important role in promoting the development of civil relationship between China and Southeast Asia, however, the issues brought about by Chinese female migrant in Southeast Asia such as *Chinese doll* syndrome as well as errant Chinese tourist are worthy of attention for both China and Southeast Asia countries.

Keywords : globalization, the feminization of migration, Chinese female migrant, Chinese doll syndrome, relationship between China and Southeast Asia

キーワード : 国際移民の女性化、中国女性の国際移動、中国－東南アジア関係

* 英文は施雪琴氏による

摘要：国際移民の女性化（the feminization of migration）は、グローバル化時代における国際人口移動の重要な現象と特徴となっている。改革開放以来、中国女性の国際移動は日増しに活発化するとともに、移民先のグローバル化、移民構造の多元化、移民方法の多様化といった特徴が現れている。本論文では、中国女性の東南アジアへの移動を中心に、中国女性の新移民が東南アジアへ移動した構造と類型、問題と影響を分析したうえで、中国女性移民の潮流における問題とマイナスの影響を重視することは、中国女性の国際移動の正常な秩序を維持し、中国と東南アジアとの民間交流の発展を促進し、中国と東南アジアとの関係発展を推進することによって積極的意義を持つことを指摘したい。

1970年代以降、グローバル化が急速に発展するにつれて、人口の国際移動がグローバル化時代の重要な現象と顕著な特徴となっている。日増しに勢いを増す世界人口の国際移動の潮流の中で、女性の国際移動は特に注目を集めている。国連人口基金が2006年9月に出版した年次報告『希望の道に向かって：女性と国際移民』の統計によると、「現在、世界の移民人口に占める女性の割合は49.6%、総数は約9,500万人にのぼり、移民人口のほぼ半数を占めている。」¹⁾ この報告書が示すように、グローバル化する今日、ますます多くの女性が男性に「従属する」移民の伝統から、まさに「独立した移民」となり、国際移動の主役や先駆けとなっている。

アジアは、世界で人口が最も多い地域であり、人口の国際移動が活発である。1970年代中ごろ以降、アジア女性の国際移動は非常に活発化しており、国際人口移動数は急速に増加している。特に、東南アジアと南アジアでは、女性が国際労働者として輸出される割合が大幅かつ安定して増加している。国際労働機構（ILO）が1996年に発表した報告書によると、アジア女性がアジアの国際労働者輸出総数に占める割合は、1970年代は15%だったが、1980年代には25%に上昇し、1990年代にはアジアの女性国際労働者は180万人に達した。これは、基本的には男性の国際労働者と差はなく、一部の国では男性を上回っている。例えば、フィリピンでは、女性の国際労働者が出国労働者数の60%を占め、インドネシアでは女性の国際労働者数が全体の2/3を占めている。スリランカでは、国外移動人口に占める女性の割合は、84%にも達した。²⁾

世界的に女性が国際移動する潮流の中で、中国女性の国際移動も急速に増加している。国連の関係機関の推計では、1960年代以降から中国女性の移民が増加傾向を呈し、特に90年代以降は、女性移民が中国の海外移民総数の49.1%を占めるまでに至り（表1）³⁾、移民先のグローバル化、移民構造の多元化、移民方法の多様化といった特徴が現れている。移民方法は、徐々に伝統的な「従属移民」から「自主移民」へと転換し、留学、技術移民、商売、労働者、国際結婚と親族移民などが、中国女性の国際移動における主な方法となっている。移民の出身地は、これまでの中国南部沿海地域から内陸へと拡大し、移民先もこれまでの東南アジア地域から南北アメリカ、ヨー

ロッパ、アフリカ地域まで拡大している。その中でも、東南アジア諸国は「生活コストが安い」という特徴のため、再び中国女性を惹きつける移住先の一つとなっている。中国女性の東南アジアへの移住は、すでに注目を集める現象となったといえよう。つまり、東南アジアの社会経済の発展と、中国と東南アジアとの民間友好往來を推進すると同時に、少なからず問題や悪影響があるため、中国や東南アジアの国家と社会から広く関心や懸念を集めている。

表 1 中国の国際人口移動動向 (1960-2005)

指数	1960	1965	1970	1975	1980	1985	1990	1995	2000	2005
中国の海外移民総数	248,163	263,127	283,256	301,542	314,399	326,904	379,808	441,274	512,688	595,658
女性移民	117,583	128,599	137,719	144,043	147,234	156,472	186,565	216,665	251,729	292,468
男性移民	130,580	134,528	145,537	157,499	167,165	170,432	193,243	224,609	260,959	303,190
女性が占める割合	47.4	48.9	48.6	47.8	46.8	47.9	49.1	49.1	49.1	49.1

出典：Population Division of the Department of Economic and Social Affairs of the United Nations Secretariat, *Trends in Total Migrant Stock: The 2005 Revision*.

—

周知のように、東南アジアと中国とは陸続きであるため、中国人の東南アジアへの移民には数百年にわたる悠久の歴史があり、東南アジアは中国の海外移民の主な集落地となっている。17世紀以降、東南アジアは一貫して中国人が大規模に海外へ移動する最も主要な目的地であった。17世紀初頭から21世紀初頭までの400年間に、中国人の東南アジアへの移民には、幾度もの高潮があった。^①全般的に、中国人の海外移民史は、男性中心の歴史である。明代末期、清代初期以前は、中国の海外移民史にはほとんど女性は登場しない。17世紀以降に起こった中国から東南アジアへの大規模移民の波の中で、「貿易移民」と「契約労働者移民」の形式と特徴が、男性主導による中国移民の歴史を決定づけた。他方、中国女性は長い移民史の中で無視できる程度であり、「少数」、「従属移民」、「受動移民」の地位に置かれ、男性移民の付属品として海外に渡って異郷に移住していた。移民社会でも、中国女性は基本的に家庭中心で、夫に付き従って子育てをする、従属的地位にあった。しかし、20世紀初期に始まった「自主移民」を主とする第三次高潮では、中国女性の東南アジア移民史に徐々に変化が始まった。特に、1930年代以降、中国女性の東南アジア移民数が増加し続け、「自主移動型移民」が増加し始めた。^②中国・中山大学の範若蘭博士は、20世紀上半期のマレーシア華人女性移住史の事例研究で次のように指摘した。「1930年代以降、能動移動型の女性移民が増加したが、それは基本的に3つに分類できる。第一は、生活のためにマレーシアに移住した中国女性で、このタイプが最も

多い。1934～1938年の5年間で、19万人の中国女性がマレーシアに就労目的で移動した。第二は、自立志望で海外に出た女性で、主に広東の「自梳女（訳者注：一生独身を通すと宣言した女性）」と「不落家（訳者注：結婚しても夫妻は別居し、しばらく一方が他方のところに通い、子どもが生まれてから同居する婚姻様式）」である。第三は、知識人の女性が増加している。⁴⁾ 1930年代の中国女性の東南アジア移民史におけるこのような変遷は、中国の女性移民史において重要な意義を持つといえよう。

中華人民共和国の建国後は、冷戦の影響を受け、中国と東南アジア諸国との政治的関係が劇的に変化したため、大規模な中国人の海外移民も基本的に停止した。そのため、300年間続いた中国人の東南アジアへの移民が中断し、中国女性の東南アジアへの移動も基本的に停止した。

1980年代以降、中国は改革開放政策を推進し、中国と東南アジアとの政治的関係が正常化し、経済協力も進展したため、中国人の東南アジアへの移動の波が再び起こった。この時期に海外へ移動した中国人は「新移民」と呼ばれ、主に商売人、経営者、技術者、労働者、学生、中国人花嫁、農民、フリーターが含まれている。庄国土教授の推定によると、1980年代中期～21世紀初期における東南アジアの新移民は約230～265万人にのぼったが、そのうちの相当部分が流動人口であった。⁵⁾ 国際連合経済社会理事会の推計に基づき、1990年代以降の中国人女性移民が中国人移民総数の49.1%を占めると仮定して計算すると、この30年間に中国人女性が東南アジアに移動した人数は約113～130万人となる。だが、その相当割合が流動人口である点を考慮すると、中国から東南アジアへの新移民女性は100万人を上回ることはいないだろう。

東南アジアに中国人が移民する新たな波の中で、女性の移民とその東南アジアでの活動は注目を集める現象となっている。その中でも、多くのエリート女性と専門技術者は、東南アジア諸国、例えばシンガポールの社会経済の発展に多大な貢献をしている。しかし、一部の女性移民、例えば非合法な水商売人、「陪読媽媽（訳者注：子供の留学に付き添う母親、study-mum）」、「中国小龍女（訳者注：中国人売春婦の蔑称）」、不法滞在の中国人女性観光客などが、東南アジアのメディアや世間で盛んに議論される話題となっている。中国女性の東南アジアへの移動は、改革開放以来の中国の社会経済の発展や、中国と東南アジアとの政治経済関係の進展に伴う現象と結果である一方で、一部の中国女性の新移民が東南アジア諸国の法律や社会道徳風習に反する行為や態度を取ったため、中国の女性新移民の名誉が損なわれただけでなく、間接的に中国と東南アジア諸国との関係にも悪影響を与えている。そのため、中国と東南アジア各国との関係発展や、華人と現地民族との調和と交流にもマイナスの影響を与えている。

二

1980年代以降に東南アジアへ移った中国女性は、留学生・専門職者、商売人、労働者、花嫁とその親族の4つに分類できる。

第一類は、留学生と専門職者である。1978年に中国が改革開放政策を実施して以降、徐々に多くの中国人学生が海外に留学し、勉学に励むようになった。改革開初期には、多くの中国人留学生が欧米などの先進国を留学先に選んでいたが、中国人学生の出国ニーズが高まるにつれて、一部の東南アジア諸国、特にシンガポール、マレーシア、フィリピンなどが中国人留学生を受け入れ始めている。これらの東南アジア諸国は、全て英語による授業を行い、欧米等の大学と共同課程や単位移転制課程を行い、学費・生活費も比較的安価なため、多くの中国人学生から人気を集めている。特に、シンガポールは、中国の巨大な留学市場に注目して、率先して積極的な政策と措置を打ち出して、中国の多様な学生を留学に誘致している。90年代中期以降は、様々な専門技術者と文化・スポーツの優秀者を含めて、高い素質を持つ大陸華人が、シンガポールが誘致する重点対象となった。さらに、シンガポールは、直接中国から優秀な学生をシンガポール留学に誘致して、これらの優秀な学生にシンガポール政府の奨学金を支給した上で、卒業後はシンガポールで6年間仕事に従事することを課している。現在、シンガポールの中国人留学生は、小学生から博士論文提出資格者（doctor candidate）まで含めて3万人以上に達している。それと同時に、シンガポールで就学する小留学生、つまり「陪読媽媽」も特殊な移民集団を形成している。報道によると、2006年の「陪読媽媽」は6,000人にのぼっている。⁶⁾ また、マレーシアの「星洲日報」の報道によると、マレーシアの中国人留学生も1万人を突破した。⁷⁾ 東南アジアの中国人留学生のうち、特にシンガポールとマレーシアは女性が高い割合を占める。さらに、女性留学生の大幅増加に伴って、中国女性移民の出身地が多様化している。女性移民は、すでに伝統的な移民出身地である福建省、広東省などに留まらず、中国内地の省、特に四川省、北京市、上海市などに広がっている。四川省出身の新移民は、新移民の同郷組織「天府同郷会」を設立している。現在、シンガポールには約30万人もの新移民がおり⁸⁾、国際連合経済社会理事会が推計した1990年代以降、中国人の女性移民が中国人移民総数の49.1%を占めるという割合を用いて計算すると、女性新移民は約14万人にのぼる。

東南アジアの中国女性新移民の第二類は、主に女性商売人から構成される。特に、マレーシア、フィリピン、タイなどでは、徐々に多くの新移民の女性が商業活動に従事するようになっている。⁹⁾ 女性留学生の出身地が多様化していたのとは異なり、東南アジアの女性商売人の多くは福建省、広東省、広西チワン族自治区、雲南省などの出身で、主として伝統的な僑郷の移民ネットワークや関係を頼り、東南アジア各国で非合法な小売業に従事している。近年、『南洋商報』などのマレーシアメディアは、中国の女性旅行者が大量にマレーシアに滞留し、非合法な小売業に従事していると頻繁に報道している。このような女性商売人の多くは、福建省莆田地域の出身である。莆田は有名な僑郷で、古くは「興化府」と称され、歴史的には興化人がマレー半島へ大量に移民したこともあった。マレーシア政府の1980年12月の人口統計によると、祖籍地が興化のマレーシア華僑・華人は約11,982人で、マレーシア華僑・華人口の0.33%を占めた。⁹⁾ 中国経済が発展し、マレーシアが中国に対して観光市場を開放するにつれて、ま

すます多くの莆田女性が旅行ビザを利用して、マレーシアで非合法的な小売業に従事するようになっている。莆田のある女性は手荷物として数十キロの商品を携帯したり、ある女性は貨物運輸会社を通じて商品を託送している。現在、莆田市涵江区の商品卸売市場は、マレーシアと他の東南アジア諸国向けの卸売・小売を専門に取り扱う供給から発送までの配送ネットワークを構築しており、低価格かつ便利で速い。そのため、小規模業者がマレーシアで商品を販売することが、簡単かつ利益を得やすい職業となっている。姚珠玲は調査の過程で、一部の莆田女性の業者が、1年に何度もマレーシアに赴いて、非合法的な商品の小売活動を行ったことを発見した。¹⁰⁾

第三類は、東南アジアで中国新移民女性が風俗業に従事する売春婦であり、東南アジア諸国の民衆からは「小龍女」と蔑称されている。ここ数年、東南アジアのメディアは、大量の中国女性が東南アジア諸国で風俗業に従事していると訴えている。また、シンガポール華人の新移民女性も小説を出版して、一部の中国女性がシンガポールで陥った境遇と苦境や、零落と葛藤を叙述しているが、その中で中国女性がシンガポールで風俗業に従事している現状を披瀝している。例えば、論争を呼んだ中国旅行作家・九丹の流行本『烏鴉』や、「陪読媽媽」を叙述した喜蛋の自叙伝小説『百合』がある。猟奇的で痴情に満ち、差別的な新聞報道は、中国女性が東南アジア社会に与える「脅威」と悪影響について誇張する一方で、このような報道は中国女性が東南アジアで風俗業に従事するという古くて新しい問題を表面化させた。

国際移民の波の中で、女性移民が無理やりにせよ、自らの意思にせよ、風俗業に従事することは一般的な現象である。女性は移動過程で通常弱い立場にあるため、女性という性的立場から、移動活動の中で特に生活困難に遭遇した時に、最も原始的な「資本」を売って最も基本的な生存保障を獲得している。このような状況は、中国女性の東南アジア移民史上では広く存在しており、華人女性が移民過程で風俗業に陥った歴史は、早くから東南アジア華人女性史と華人社会を研究する学者に注目されてきたとも言える。日本人学者・可児弘明は、『近代中国の苦力と「猪花」』の中で、清末から民国時期に香港経由で海外に売られた華人娼婦の問題について議論している。^④

女性としての性的立場と国際移動自体が持つ困難な特徴によって、女性が極めて容易に風俗業に従事してしまうことは否定できない。他方で、一部の犯罪集団も東南アジアの風俗業に大きな「ビジネス・チャンス」があると見るや、あらゆる手段を用いて中国女性を風俗業に無理やり引き込んだり、誘惑したりして、暴利を貪っている。グローバル化した今日、海外移動の波に乗る中国女性がますます多くなるにつれ、一部の女性が東南アジアで風俗業に従事することは避けられない厳しい現実となっている。関係データによると、マレーシアだけで2000年以降、華人女性がマレーシアで風俗業に従事して逮捕された人数が急増している。例えば、2000年はわずか196名だったのが、2002年には1,230人、2003年には1,971人、2004年には1,821人に上昇しており、2005年にマレーシア警察に逮捕された4,900人の売春婦のうち、中国大陸女性は40%を占めた。¹¹⁾ ますます多くの華人女性が東南アジア諸国で風俗業に関わっている

ことは、すでに個別的現象に留まらず、東南アジアの国家と社会から注目を集めるようになったと言える。

東南アジアに移動する中国女性の第四類は、主として中国人花嫁とその親族の移民である。国際結婚は、女性の国際移動の主なルートの一つである。中国が対外開放するにつれ、国際結婚は中国女性が出国し、国際移動を実現する主要な方法の一つとなっている。シンガポール、マレーシア、タイ、フィリピンの経済発展度は、東南アジアでは高い水準に達しており、華人人口も比較的多く、生活も豊かで、文化・生活習慣も似通っているため、一部の中国女性が国際結婚を求める理想的な国となっている。2006年、マレーシア政府の統計によると、6,000人を超える中国人花嫁がマレーシア人男性と合法的に結婚した。¹²⁾ 調査によると、中国の著名な福建僑郷の晋江は、2.3%の移民が嫁入りという形でフィリピンに移動し、40.9%の新移民が親族訪問の形で国際移動を実現している。¹³⁾

中国新移民の国際移動におけるモデルと構造を簡潔に考察すると、中国女性の国際移動モデルは高レベル移動と低レベル移動に分けられ、グローバルな女性の国際移動モデルと多くの共通点があることが分かる。例えば、留学（技術移民）、婚姻、親族移住、ビジネスなどが中国女性の移動の重要な方法となっている。他方、女性の低レベルの国際移動では、労務輸出の過程で性的暴力を受けたり、風俗業に従事する点が、各国女性の国際移動で共通して直面する問題となっている。他のアジア諸国と比較して、中国女性の国際移動構造で、正規の労働契約に基づいて輸出された労働者は少なく、割合も低く、家事業務に従事する女性はさらに少ない。フィリピン、インドネシア、スリランカ、バングラデシュのようなアジアの労働力輸出大国^⑤と比較して、中国女性が低レベル労働に従事する数は相対的に少ない。この点が、中国女性の国際移動構造における一つの顕著な特徴である。

三

現代の中国女性の国際移動者数の増加と東南アジアにおける中国の女性新移民の増加は、中国の改革開放と経済のグローバル化と表裏一体であり、中国と東南アジア諸国との政治的友好発展、経済協力の深化の重要な成果でもある。中国女性の東南アジアへの移民は、一方では中国と東南アジアとの民間レベルの友好往來を推進し、中国と東南アジア社会との相互理解を促進し、双方の社会経済の発展を推進することによって積極的な意義を持つといえる。しかし他方で、大量の中国女性が東南アジアへ国際移動する過程で、玉石混合の様々な人々が含まれ、特に一部の中国女性が東南アジア諸国で現地の法律規定と社会道徳風習に違反することによって、現地社会に悪劣な影響を与えているともいえる。

まとめると、今日、中国女性が東南アジア地域で議論を呼ぶ主要な問題の一つは、東南アジア諸国社会が、中国女性が東南アジアで風俗業に従事することを非難し、忌み嫌う、つまり、

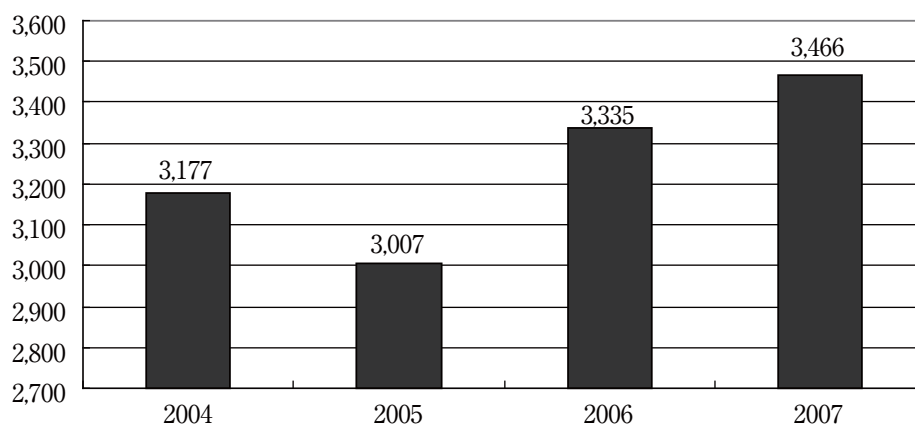
いわゆる「小龍女綜合症 (Chinese dolls syndrome)」である。「小龍女」とは、東南アジア民衆が現地で風俗業に従事する中国の若い女性に対する蔑称である。2000 年以來、『南洋商報』や *Straits Times* などのシンガポールやマレーシアの中国語・英語主流紙は挙って、大量の中国の若い女性がシンガポールやマレーシアで風俗に従事していると報道している。2001 年、シンガポールに留学経験を持つ中国女性作家・九丹の小説『烏鴉』は更にそれをあおり立てて、「小龍女」の話題を全世界に露出した。この本は、シンガポールのグリーンカードを取得した中国の女性留学生が、シンガポールで風俗業に従事する別種の留学生生活を描写している。このような写実的スタイルの小説は、ある程度は中国女性のシンガポールでの生活の現状を反映しており、東南アジアの出版社から歓迎された。その後、シンガポールメディアが、多くの中国出身の「陪読媽媽」がシンガポールでの子供の学費と生活費を負担できないため、非法な「按摩業」に従事している現状を挙って報道し、「陪読媽媽」がシンガポールで大きな話題となった。様々なメディアが大袈裟に書き立てたため、中国女性が東南アジアで「風俗業に関わる」事件が急速に拡大し、一時期多くの東南アジア民衆の目には、「小龍女」があたかも中国女性の東南アジアにおける代名詞に映り、東南アジアの道徳価値概念を損ない、社会風紀を腐敗させ、現地人の家庭や婚姻を破壊する「元凶」とされていた。そのため、中国女性だけでなく国家全体に対するイメージが大きく損なわれ、中国と東南アジアの正常な民間交流と労働輸出に悪影響を与えた。^⑥

東南アジア諸国の「中国小龍女」問題の発生は、決して独特な現象ではない。最近の東南アジア地域における風俗業の発展の一側面であり、風俗業は経済発展に伴って繁栄することは多くの国が遭遇する普遍的な現象であり、最近のアジア太平洋地域の経済発展過程で顕在化した深刻な社会問題でもある。「小龍女綜合症」が東南アジアで氾濫したのには多くの要因があるが、特にそれは東南アジア諸国が観光産業を大いに発展させた産物であり、^⑦特に東南アジア諸国が中国を巨大な旅行市場として、様々な施策を講じて中国の観光客を入国し易くした観光政策と密接に関係している。1990 年代以降、中国経済が発展するにつれて、東南アジア諸国は中国旅行市場の開発を強化しており、1988 年にタイは中国人の海外旅行を受け入れた最初の国となった。1990 年～1992 年には、東南アジアのシンガポール、マレーシア、フィリピンが相次いで中国人の親族訪問旅行を認めた。また、2000 年～2002 年には、東南アジアのベトナム、ミャンマー、ブルネイ、カンボジア、インドネシアが中国人の親族訪問旅行を認めた。2005 年には、ラオスが中国人の親族訪問旅行を認めた。これまでに、東南アジア 10 カ国が中国人の観光を開放している。

中国の観光客を誘致するために、東南アジア諸国は入国法令を緩和し、入国手続きを簡素化している。シンガポール政府は、2003 年 11 月 1 日に入国法令の緩和を発表し、中国人のビザなしでのシンガポール入国を許可し、最長 30 日間滞在できる。シンガポールが中国人観光客に対してビザ政策を緩和したことで、中国人観光客の増加を大いに促した。例えば、法令公布

から1ヵ月後の2003年12月には、シンガポールへの中国人観光客が2003年10月の56,678人から25%増加して71,013人に激増した。¹⁴⁾ また、タイ、マレーシア、フィリピン、ベトナム、カンボジア、ミャンマー、ブルネイ、インドネシアなどの東南アジア諸国も続いて同様の政策を制定するとともに、「現地到着後のビザ発給」政策を中国人観光客にも拡大したことで、中国人観光客の東南アジア観光旅行が非常に便利になった。2004年以降、毎年東南アジアを訪れる中国人観光客は300万人以上にのぼり（表2）¹⁵⁾、毎年の中国人海外観光客数の約10%を占める⁽⁸⁾。また、中国人観光客は東南アジア地域以外でも、EUと日本に次いで第三の観光客供給国となり、東南アジア諸国の観光客総数の6.2%を占める。¹⁶⁾ タイ、シンガポール、マレーシアは、中国人観光客が最も訪れる観光地である。例えば、2006年にタイを訪れた中国人観光客はのべ80万人を超えたほか、¹⁷⁾ 2006年にシンガポールを訪れた中国人観光客は初めて100万人を超え、のべ103万7千人に達した。¹⁸⁾ 2007年は「マレーシア観光年」であり、2005年には「中国人観光客恥辱事件」の影響が完全には消えていなかったが、2007年はマレーシアを訪れた中国人観光客が80万人を超えた。フィリピンやインドネシアなどのシンガポール、マレーシア、タイを除く他の東南アジア諸国の中国人観光客も、徐々に増加している。例えば、2003年にインドネシアを訪れた中国人観光客は約4万9千人にのぼり、2005年に中国人旅行者に対する「現地到着後のビザ発給」が実施されてからは、インドネシアを訪れた中国人観光客は15万9千人まで激増している。インドネシアの観光機関は、中国人観光客の誘致に大きな自信を持っており、2007年には30万人を誘致する計画である。¹⁹⁾ フィリピンを訪れた中国人観光客も年々増加しており、2004年には4万人に近づき、2005年には10万人まで増加し、2006年には13万人を超えた。²⁰⁾

表2 東南アジアの中国人観光客数 2004～2007年（単位：千人）



出典：ASEAN Tourism Database, (<http://www.aseansec.org>).

東南アジアでの中国観光客の増加は、東南アジア諸国に巨額の外貨収入をもたらしたが、他方で社会問題も引き起こした。その中で重要な問題の一つは、中国人女性が東南アジアで風俗業に従事する人数が徐々に増加していることである。中国の観光客が増加するにつれて、かなり多くの「金儲け」目的の風俗女が旅行ビザを使って自由に入国し、長期間東南アジア諸国に滞在して、不法に風俗業に従事している。内情を知っている関係者によると、このような女性の不法滞在与風俗活動は、すでに組織的に行われるようになってきているという。²¹⁾

中国人観光客がもたらした第二の問題は、一部の観光客が旅行ビザを利用して合法的に出国して中国に帰国せず、不法移民になる点である。国家間の発展度と生活水準の格差などが原因で、一部の中国人が海外旅行を通じて合法的に出国して、最終的には海外に不法滞在する目的を達成している。このような状況が、東南アジア諸国で深刻化している。シンガポールの『聯合早報』は、2000年6月にシンガポール警察が153名の不法移民とオーバーステイ者を逮捕し、そのうち中国人男性115名と中国人女性37名が含まれていたと報じた。²²⁾ 東南アジアは、海外華僑華人の主要なコロニーであり、中国の新移民にとっても主要目的地の一つである。特に、中国の伝統的な僑郷である福建、広東、広西、雲南の観光客は、合法的に入国後、簡単に移民ネットワークを利用して生存でき、滞在し続けることができる。廈門大学僑郷新移民課題チームが福建省晋江市で行ったアンケート調査によると、旅行形式でフィリピンに入国した晋江人はフィリピン移住者の34.1%を占め、晋江人観光客がフィリピンに不法滞在する割合は91.1%にのぼり、²³⁾ 女性も多く含まれていた。これは単なる福建省晋江市の事例であって、中国人観光客が東南アジアに滞在する実態を捉えることはできないが、ある程度は一部の特殊地域の中国人観光客が東南アジアで不法滞在する実態を反映している。この他に、廈門空港は1998年以降海外からの送還者の受け入れを始めたが、2003年9月までにマレーシア、日本、フィリピン、タイ、韓国からを中心に9,200人が送還された。送還者の中で、福建人が大多数を占めた。²⁴⁾ 中国女性の新移民問題は、すでに東南アジア諸国と社会の関心を集めている。政府の旅行業振興による問題に対して、一部のシンガポール人は「小龍女総合症」に困惑しており、政府に対して慎重に観光客の入国政策を制定して、「外貨の導入」と同時に「社会問題の導入」が生じないように求め、経済的發展と同時に社会的コストにも注目するよう呼び掛けた。²⁵⁾ 同様に2004年、マレーシアは中国の若年女性に対する旅行ビザの発給を厳しくし、年齢が10～25歳の中国女性は「特別証明の提示と家族の同伴」が必要となった。2005年、マレーシアで発生した一連の中国女性観光客に対する恥辱事件は、マレーシア社会が中国女性を敵視していることを表面化させた。一連の事件は、中国とマレーシアの民間交流の発展に重大な影響を与え、両国関係の正常な発展に暗い影を落としたため、中国・マレーシア両国の指導者は非常に重要視した。2005年12月、中国の温家宝総理は、マレーシアの首都クアラルンプールで開催されたASEAN首脳会議に出席し、マレーシアのアブドラ総理と会見した際、双方がこの事件について協議と意見交換を行った。マレーシアのアブドラ総理は、即時に独立調査委員会を立ち上げ

てこの事件の公開調査を行うとともに、マレーシアは中国人を差別する政策は取っていないと表明した。中国の温家宝総理は、マレーシアが更なる措置を取り、事実を精査して事件当事者を処罰して、類似事件の再発を根絶することで、両国民の正常な交流の条件を整えるよう希望した。これからも分かるように、今日の中国人女性の国際移動は、単純な経済と民間交流のレベルを超え、中国と東南アジア諸国との正常な関係発展に影響を与える無視できない問題となっている。

おわりに

今日、グローバル化の流れを押し留め、中国の改革開放を止めることはできない。中国と東南アジア諸国との政治関係が深化し、地域経済が一体化を強めるにつれて、中国人の国際移動の流れはますます激しくなるので、東南アジアは中国の流動人口による広範な影響と問題に直面することは避けられないだろう。そのため、いかに域内人口の国際流動の秩序を保ち、域内の人的資源開発の調和を図り、各国社会経済の調和的発展を促すかが、中国と東南アジア諸国の前に横たわる重大な課題であろう。中国と東南アジア諸国は、人口の国際移動政策の研究と協力を強化してはじめて人口の国際移動の積極的な効果をあげ、人口の国際移動の悪影響を減少・消滅させ、国際人口移動の秩序と移民の合法的権利を真に保護し、中国と東南アジアの民間友好往来を促し、中国と東南アジア諸国の関係の順調な発展を促進することができると思われる。

<注>

- ① 中国の華人移民史研究の専門家である厦門大学の庄国土教授は、17世紀以降、中国人の東南アジアへの移民は4つの高潮があると考えている。第一次高潮は、17世紀初期～19世紀中期で、主な特徴は移民と貿易とが連動していた点で、中国と東南アジアとの貿易が発展したことで、広東・福建から大量の移民が発生した。第二次高潮は、19世紀中期に始まり20世紀初期まで続いた。その主なモデルは契約労働者で、西洋の植民者が東南アジアを開発するために、大量の華人労働者を東南アジアに移動させて「苦力」に充当した。中国人が東南アジアへ移民する第三次高潮は、20世紀初期～1950年代に発生し、自主移民の形を取った。中華人民共和国の成立後から1970年代後期まで、冷戦や中国と東南アジアの国内政治の影響を受け、大規模な中国人の海外移民は基本的に停止した。1980年代から、中国の改革開放政策の推進や、中国と東南アジアとの政治関係の正常化と経済協力の進展により、中国人は再び大規模に東南アジアへ移動する高潮が起こった。この時期に海外へ移動した中国人は「新移民」と称されている。庄国土「論中国人移民東南亜の四次大潮」、『南洋問題研究』2008年第1期、pp.69-81を参照のこと。
- ② マレーシアを例にとると、1934年以降、華人女性移民は上昇し続け、1934～1938年ではそれぞれ35,063人、40,921人、51,522人、95,911人、44,993人となり、成人移民総数の38.18%、31.99%、39.76%、46.65%、53.43%を占めた。範若蘭『移民、性別与華人社会：馬來亞華人女性研究（1929-1941）』北京：中国華僑出版社、2005年、p.80。
- ③ 『遠東経済評論』の記者 Bertil Lintner は、この報道で実業家はすでに東南アジアの中国人新移民の主要構成となっていることを明らかにした。Bertil Lintner, *CHINA'S THIRD WAVE*, Asian Times Online, Apr 17, 2007 (<http://www.atimes.com/China/ID17Ad03.html>)を参照のこと。

- ④ 可見弘明『近代中国の苦力と「猪花」』岩波書店、1979年（孫国群ら訳『“猪花”——被販売の海外婦女』河南人民出版社、1990年）。
- ⑤ 国際労働機構（ILO）の調査によると、上述した国の海外女性労働者の90%以上が家政サービス業に従事し、主に沿岸アラブ諸国とアジアのシンガポール、香港、マレーシアなどの国と地域に集中している。*Female Asian Migrants: a Growing But Increasingly Vulnerable Workforce*, ILO, 5 February 1996（劉軍「当代海湾国家的外来劳工移民及其影響」『世界民族』2008年第6期）を参照のこと。
- ⑥ 例えば、マレーシアの関係機関は政府に対して禁令を解除し、中国から女性の使用人を導入するよう要求したが、マレーシア各界、特に華人社団の反対を招いた。馬華公会婦女組の黃燕燕主席は、内政部に一時中国の女性使用人の導入を見合わせるよう陳情した。黄主席は、馬華公会婦女組織は中国の女性使用人の導入問題に強い関心を持っており、政府はまずマレーシア国内の中国女性に対する問題を解決すべきであり、友好な管理メカニズムを制定した上で、中国からの女性使用人の導入を検討できると指摘した。また、導入する中国の女性使用人は40歳以上とし、イスラム教を信仰していることを条件とするよう求めた。「中国女傭在馬來西亞引紛争，小龍女是症結」、『國際先驅論壇報』、2007年6月1日を参照のこと。
- ⑦ アジア太平洋地域の観光業発展による政治経済的影響は学者の関心を集め、多くの研究成果がある。例えば、Vannarith Chheang, “The Political Economy of Tourism in Cambodia”, *Asia Pacific Journal of Tourism Research*, (Volume <http://www.informaworld.com/smpp/title~content=t713694199~db=all~tab=issueslist~branches=13-v13>), Issue 3 September 2008, pp.281-297 は、カンボジアが90年代以降の観光業の発展による社会経済的影響について考察と分析をしており、特に観光業管理政策の遅れと失敗によって、カンボジアでHIV/AIDSが拡散したことと、未成年の風俗業が氾濫したことについて言及している。
- ⑧ 中国人の海外旅行者は、2000年に初めてのべ1,000万人を突破した。2003年には、のべ2,020万1,900人、2005年にはのべ3,102万6,300人に達して、日本を超えてアジア最大の海外旅行客供給国となった。2006年にはのべ3452万3,600人にのぼり、東南アジアのタイ、シンガポール、マレーシア、ベトナムは、依然として中国人が最も行きたい海外旅行先の上位10位にランキングしている。<http://www.icandata.com/guancha/0HU64R008.html>, <http://www.cnta.gov.cn/html/2008-6/2008-6-2-14-52-59-213.html>を参照のこと。

<引用>

- 1) UNFPA (2006), *State of World Population 2006, A Passage to Hope: Women and International Migration*（原資料：李明歆「女性在国际人口遷移中的地位、作用与影響」、『国外社会科学』2007年第四期、p.97。）。
- 2) *Female Asian Migrants: a Growing But Increasingly Vulnerable Workforce*, ILO, 5 February 1996.
- 3) <http://esa.un.org/migration/p2k0data.asp>
- 4) 範若蘭『移民、性別与華人社会：馬來亞華人女性研究（1929-1941）』北京：中国華僑出版社、2005年、pp.84-88。
- 5) 庄国土「論中国人移民東南亞的四次大潮」『南洋問題研究』2008年第1期、p.79。
- 6) 庄国土、前掲書、p.77。
- 7) 中国僑網 (<http://www.chinaqw.com/lxs/lxsxw/200812/27/144095.shtm>)。
- 8) 『人民日報海外版』2005年5月27日。
- 9) 楊力・葉小敏『東南亞的福建人』福建人民出版社、福州、1993年、p.137。
- 10) 姚珠玲『生存与發展：中国新移民在馬來西亞』修士論文（未刊）、厦門大学南洋研究院、2007年、pp.48-50。
- 11) 姚珠玲、前掲書、pp.33-34。
- 12) 人民網 (<http://chinese.people.com.cn/GB/42310/3856628.html>)。
- 13) 洪小荣『晋江新移民的海外遷移——以菲律賓為例』厦門大学南洋研究院、修士論文（未刊）、2006年、p.36。

- 14) Invasion of the China dolls (girls), (<http://www.getformesingapore.com/previous2004/previous050704>).
- 15) ASEAN Tourism Database, (<http://www.aseansec.org>).
- 16) ASEAN Tourism Database, (<http://www.aseansec.org>).
- 17) 「2006 年中国赴泰国旅游人数超過 80 万」(<http://news.sina.com.cn/w/2007-02-01/113911141470s.shtml>).
- 18) 新華網「關注春節出境游：到新加坡過一個“熱帶春節”」(http://news.xinhuanet.com/travel/2007-02/14/content_5739496.htm).
- 19) “Indonesia hopes for 150, 000 Chinese tourists” , Asia Times Online, (http://www.atimes.com/atimes/China_Business/GK29Cb01.html).
- 20) Paolo Hooke, “Feeling good in the Philippines” , Asian Times Online , (http://www.atimes.com/atimes/Southeast_Asia/GD19Ae02.html).
- 21) 趙立「中国女子馬來西亞受辱事件福建探源」(<http://news.sina.com.cn/c/2005-12-13/01558562116.shtml>).
- 22) 「新加坡逮捕逾百中国非法移民」、『聯合早報』、2000 年 6 月 30 日。
- 23) 洪小榮、上揭書、p.37。
- 24) 姚珠玲、上揭書、p.55。
- 25) Invasion of the China dolls (girls),
(<http://www.getformesingapore.com/previous2004/previous050704>).

